

「公共工事コスト削減対策に関する新行動指針」

【施策名：(1) 工事コストの低減 【I④】 砂防ソイルセメントを用いた工法の推進】

現地発生した自然石の活用によるコスト改善

工事名：広島西部山系宮内2号溪流保全外工事（国土交通省 中国地方整備局 太田川河川事務所）

概要：（従来）ブロック積み護岸 → （新）自然石積み護岸

効果 ○ 流路護岸の材料として、間知ブロックの代わりに現地で発生した自然石を用いることで、建設副産物の低減・有効利用が可能となり、間知ブロックを使用した場合より、環境への負荷を軽減すると共に建設コストの改善につながる。

12.9百万円から10.2百万円に改善。（改善額 2.7百万円、改善率 約21%）



現地の状況

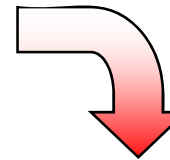


流路の掘削により発生した自然石

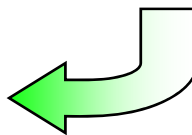
従
来



自然石は処分



護岸はブロック積み



現地発生材である自然石を護岸材料として活用